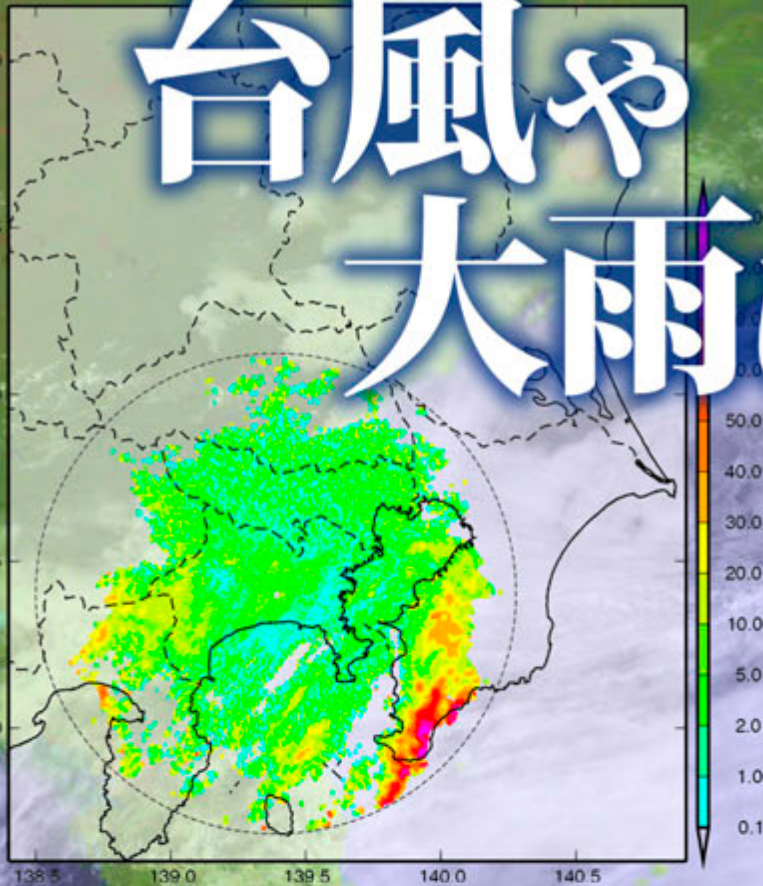


台風や 大雨に備えて



あなたの家はどんな場所にありますか？

- ①山や崖のそばでは
- ②海のそばでは
- ③川のそばでは
- ④低いところでは
- ⑤ゼロメートル地帯では

台風や大雨の時には

- ①正しい情報を早く知る
 - ②避難を決断するときには
 - ③避難する前に
 - ④避難するときは次のものを持つ
 - ⑤避難するときには
 - ⑥避難する場所は
- ◎豆知識

水・土砂災害から生命と財産を守るために…

あなたの家はどんな場所にありますか？



山や崖の
そばですか？



川のそばですか？



海のそばですか？

ゼロ
メートル
地帯
ですか？

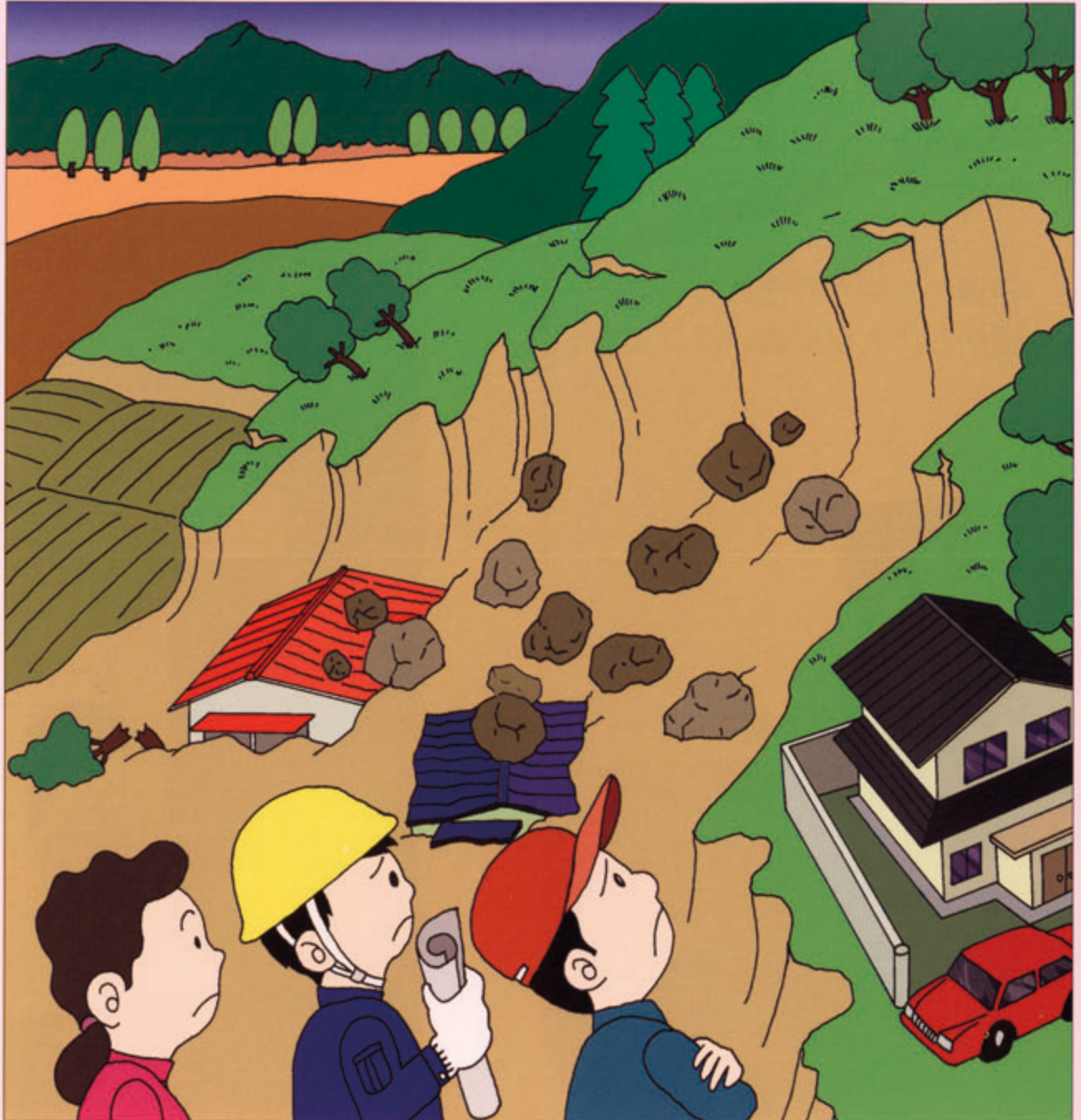


低いところ
ですか？

1

山や崖のそばでは

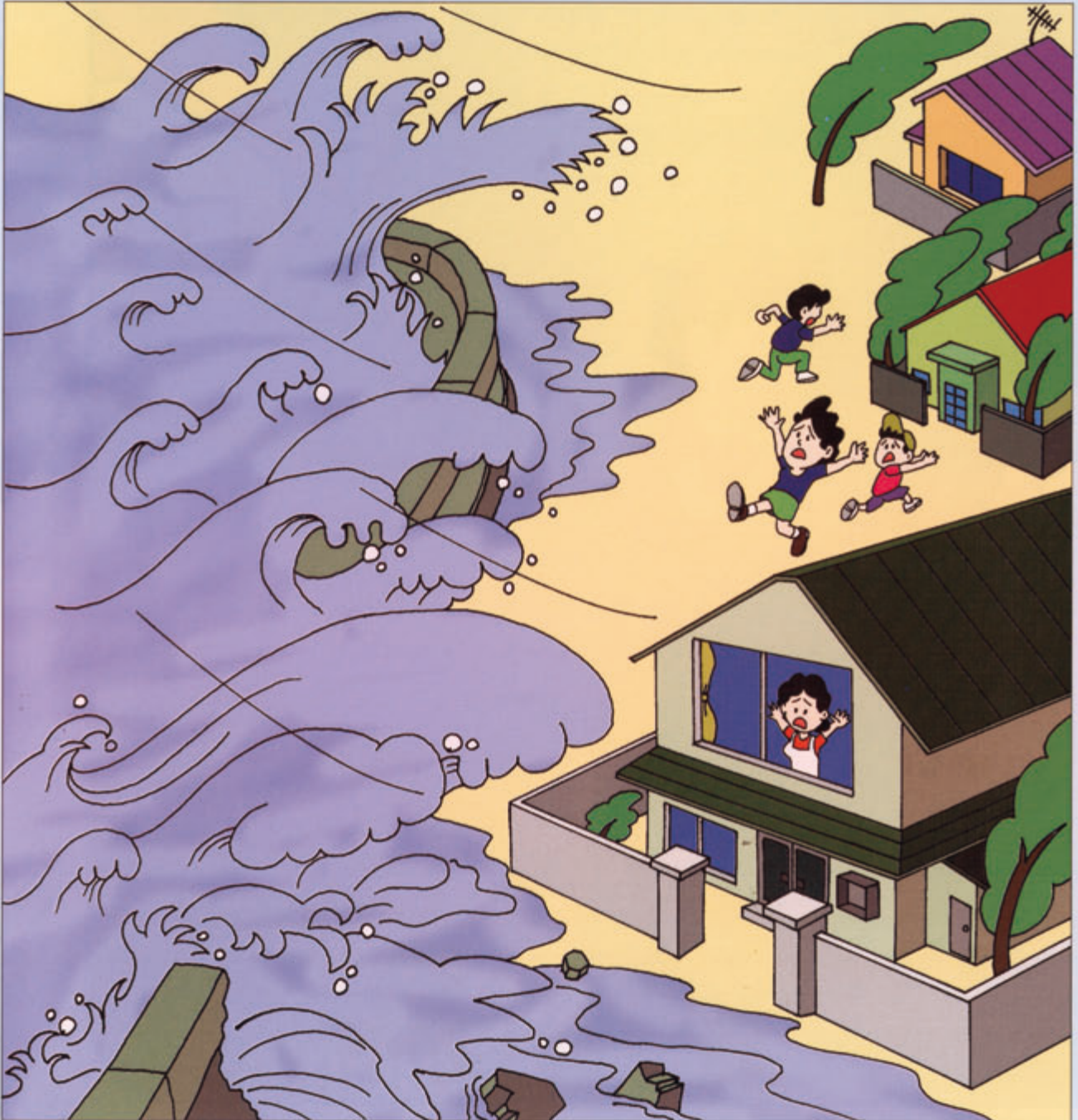
- 大雨が降ると、崖の近くや山の近くでは崖崩れや山崩れがおきやすくなります。
- 大雨のときに生じる山崩れ、崖崩れは、流れが速いため崩れ始めてから避難したのでは、ほとんどの場合、間に合いません。今まで経験したことがないような大雨のときは、早めに崖や山から離れたところに避難しましょう。
- 小石などがぱらぱら落下してくる、湧水が噴き出したり、濁ったり、止まったりする、斜面がふくらむ、地鳴りが聞こえる、などの現象を発見したら、直ちに避難しましょう。



2

海のそば では

- 台風がくると、海面がふくれ上がり、大波が堤防を越えて陸地に押し寄せて大被害となることがあります。台風が近くの西側を通過するときは、雨や風が強くなりますので、特に注意しましょう。
- テレビ、ラジオ、有線放送や警察などの情報に注意しましょう。
- 風が強く、海が荒れてきたら早目に近くの高い場所に避難しましょう。
- 台風が満潮と重なると更に水かさが増します。満潮の時刻にも注意を払いましょう。



3

川のそば では

- 大雨が降ると川の水かさが増えて宅地や耕地に流れ込むことがあります。また大河川では上流部で大雨が降ると、下流部では雨がなくても、川の水かさが増え続けることがあるので、テレビ、ラジオ、有線放送や水防団（消防団）、警察などの情報に注意しましょう。
- 川の水が、宅地や耕地に流れ込んできて水かさが増えるときは、特に危険です。急いで避難しましょう。



4

低いところ では

- 排水が悪いので、雨が降ると水が溜まりやすいです。テレビ、ラジオ、有線放送や警察などの大雨の情報に注意しましょう。
- 場所によって水かさが急に増すことがあります。早めの避難を心がけ、緊急時にはあわてずに近くの高いところに避難しましょう。
- 地下室や半地下が浸水を始めると急激に水かさが増し、逃げ遅れる事があります。大雨時には外の様子に注意しましょう。



5

ゼロメートル 地帯では

- 台風がくると、海面がふくれ上がり、大波が打ちよせ堤防を越えて海水が溢れてくることがあります。低地では水はけが悪いこと、地盤沈下で堤防が弱っていることがあるので、大変危険です。
- いったん堤防が切れると、海水が浸入し満潮位まで浸ることになるため、広い範囲に大きな被害が発生します。
- 堤防は、地震でも壊れることがあります。このときは、突如浸水することになるので、大変危険です。
- 市・区役所などに問い合わせ、自分の家の地盤高を知り、満潮位以上の高さにある避難場所を確保しましょう。



台風や大雨のときには——

1 正しい情報を早く知る

- 天気予報を聞く！
- 雨の降り方に注意する！
- 水防団や警察の情報を聞く！

有線放送による水防団
(消防団)や警察など
の情報を聞きましょう！

雨の降り方や家の
まわりの水の流れに
気をつけましょう！

準備しておこう！

- 避難場所を覚えておこう
- 避難するルートに危険がないか確認しておこう
- 家族の集合場所や連絡先を決めておこう
- 家族の血液型や持病を記したカードを用意しておこう

2 避難を決断するには

夜は、行動が遅くなり、大命
の被害が大きくなりがちです。
夜は、不寝番をおき昼に比べ
て早めに行動しましょう！

避難の時期や方法について
近所と声をかけあいましょう！

天気予報で
台風の位置を
確認しましょう！
(台風が近くを通過
するときや前線が
長い間停滞してい
るときは、特に注
意しましょう！)



3

避難する前に！



4

避難するときには 次の物を持つ!

必要なものは、リュックサックなどに入れて、
両手はいつも使えるようにしましょう!



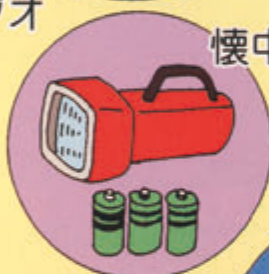
携帯
ラジオ



ローソク
マッチ



飲料水



懐中電灯
電池



クシリ



ロープ



食料



預金通帳 現金



ミルク



おむつ

帽子 ビニール袋 卓上コンロ 缶切り



5 避難するときは！

皆一緒に

避難する道路は、崖の下や山の近く、沢すじは避けましょう！

手をはなすな

水が道路にあふれると小川や溝と道路の境がわからなくなります。また、マンホールのふたは、開いてしまいます。避難する道路の近くにある小川や溝の位置を知っておきましょう！



6 避難する場所は！

高い場所

近くの少しでも高いところに

古老に水につからない場所を
尋ねておきましょう！

高い建物

避難する場所や方法について、家族は
もちろん、隣り近所の人と決めておき
ましょう！



豆知識

- 水・土砂災害による死者・行方不明者の数は、自然災害のかなりの部分をしめています。
- 市町村や警察から避難の勧告や指示があったら、それに従いましょう。

水災害から生命を守るために

- 水田、沼、河川の跡の土地に家を建てた場合、浸水の恐れがあります。あなたの住んでいる土地はどんな場所であったか、古くからそこに住んでいる人に聞きましょう。
- 水が道路にあふれると、あちこちに深く浸水する場所や坂道で流れが速くなるところがあります。普段から避難場所や避難経路を確認し、避難するときには気をつけましょう。
- 大雨が続くとダムが放流を始め、急に水かさが増える事があります。中州や川の近くでのキャンプには注意しましょう。
- 台風や大雨による災害を防ぐために、水防活動は重要で有効な防衛手段です。支障のない限り、積極的に協力しましょう。

土砂災害から生命を守るために

- 雨量が1時間に20mm以上、あるいは降り始めから100mm以上になると崖崩れ、土石流などの土砂災害に要注意です。大雨警報などの気象情報とともに、土砂災害警戒情報などにも注意して、早めの避難を心がけましょう。
- 雨が降り止んでも山崩れや崖崩れが発生することがあります。意外な場所のわき水、小石がぱらぱらと落下する等、通常と異なる状況に出会ったら要注意です。
- 山の近くの溪流沿いでは、地鳴りや石が転がる音、流水の異常な濁りや水量の激減、倒木の流下、などが土石流発生の前兆です。すみやかな避難が必要です。
- 家の基礎をコンクリートなどの強いものにするとともに、2階建などの避難室を造るようにしましょう。



独立行政法人
防災科学技術研究所

〒305-0006 茨城県つくば市天王台 3-1
Tel.029-851-1611 Fax.029-851-1622 URL; <http://www.bosai.go.jp>
水・土砂防災研究部、企画部広報普及課



2002.4-2008.8